アナン学園高等学校
校長　大槻　伸裕

2026年度　アナン学園高等学校　学校評価
(2025年度の教育活動に対する学校評価)

1　めざす学校像

校訓に基づいた学校経営の実践と地域から信頼される学校づくりをめざす

1) 校訓を基に教育をおこなう
   ① 感謝の気持ちを忘れず
   ② 相手の立場に立って考えられる
   ③ 何事にも礼儀を守り
   ④ 社会に貢献する人間の育成
2) 新しい学校づくりに力を注ぐ
   ① 看護科　看護師国家試験合格率向上をめざす
   ② 調理科　校外実習・インターンシップ・資格取得の充実をはかる
   ③ 看護科・調理科　ICT教育の充実をはかる

2　中期的目標

1　確かな(学力向上への)取り組み
1) 生徒の学習意欲の向上
   ① 基礎学力の向上
   ② 少数精鋭で生徒個々の能力を引き出す
   ③ 希望進路への充分な取り組み
   ④ 調理科の資格取得への取り組み
2) 教員の指導力向上の取り組み
   ① 校内・校外研修の取り組み
   ② 初任者への公開授業の取り組み
   ③ リーダーの養成
3) 自学自習の習慣化に向けての取り組み
   ① 平素の授業での指導の徹底
   ② 集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる
   ③ 授業のみならず課題学習への重点的な取り組み
   ④ 実力テストや資格検定の実施
4) 進路指導の充実
   ① 推薦・AO・センター試験等に向けての取り組み
   ② 就職指導の充実
   ③ 企業見学や企業が求める人材の育成
   ④ 看護師国家試験対策
   ⑤ 調理科のインターンシップや校外実習の充実
5) ICT教育の充実
   ① 校内委員会の活動
   ② 設備面の充実

2　豊かな心を育むための取り組み
   ① キャリア教育と人権教育の取り組み(進路保障)
   ② 看護科の臨地実習の充実
   ③ 調理科のインターンシップ・校外実習の取組み

3　学校の組織力向上の取り組み
1) 学校自己診断の実施
2) 保護者との連携
3) 地域連携
4) 広報活動の充実

4　教職員の資質向上をめざした体制づくり
1）授業力向上に向けた具体的(授業研究・研修等)な取り組み
2）教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み
3）学科間・教員間の連携

3【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

2026 年度　学校評価について

2012 年度より本校では、保護者や生徒からの学校評価や教職員による学校評価を実施しています。
2025 年度の教育活動に対するアンケートは 2026 年 1・2 月に保護者・生徒・教員に対して行いました。
アンケートは各項目に対し、［A：よくあてはまる　B：ややあてはまる　C：あまり当てはまらない　D：まったくあてはまらない　E：わからない]の５段階で評価し、A＋Bを肯定的評価、C＋Dを否定的評価としました。
下記の表は、保護者・生徒・教員のアンケート結果を(60%以上の肯定的、否定的評価)についてまとめたものです。この結果をもとに、学校関係者で 2026 年 8 月に評価委員会を開き、自己評価を行いました。
アンケート結果や評価を謙虚に受け止め、早々に取り組めるところは取り組んでいきたいと考えています。
また、保護者の皆様に対して学校経営に関する情報については、文章配付や学校ホームページを活用し提供することに努めていきます。
最後に、この場をお借りして、アンケートにご協力頂きました方々にお礼を申し上げます。
ありがとうございました。

【自己評価アンケートの結果と分析及び学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析［2026年8月］	学校評価委員会から
生徒からの回答 (60%以上の肯定的評価) ・学校に行くのが楽しい。(80%) ・自分の学級は楽しい。(78%) ・この学校には、他の学校にない特色がある。(85%) ・先生は生徒の意見を聞いてくれる。(72%) ・授業はわかりやすく楽しい。(64%) ・授業では、実験・観察・実習をする機会がよくある。(81%) ・授業で自分の考えをまとめ、発表する機会がある。(72%) ・考え方に工夫をしている先生が多い。(70%) ・授業でわからないことについて、先生に質問しやすい。(72%) ・先生は、学習で自分が努力したことを認めてくれる。(84%) ・評価の仕方や基準について、事前に示されている。(89%) ・学習の評価については、納得できる。(82%) ・悩みや相談に親身になって応じてくれる先生が多い。(71%) ・先生は協力して生徒指導にあたっている。(69%) ・先生やスクールカウンセラーはいじめなど私たちが困っていることについて真剣に対応してくれる。(63%) ・担任の先生以外にも保健室等で、気軽に相談することができる先生がいる。(76%) ・学校生活についての先生の指導は納得できる。(72%) ・学校では、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。(72%) ・将来の進路や生き方について考える機会がある。(86%) ・学校は進路についての情報を知らせてくれる。(78%) ・学校は奨学金制度についての情報を知らせてくれる。(74%) ・ホームルーム活動は活発である。(64%) ・文化祭は楽しく行われるよう工夫されている。(82%)	※生徒たちは、学校に来ることが楽しく、自分の学級が楽しいと思っている。その要因は、クラスによき友人がいることや、先生と充分なコミュニケーションが図られていることがある。 ※「授業はわかりやすく楽しい」の肯定的回答の割合が毎年少しずつ高くはなっているが60%代であるため、もっと高くなるよう工夫が必要だ。 ※生徒と教師は良好な関係である。 ※「評価」について、生徒に充分な説明を行い、生徒が納得していることが伺える。 ※悩みや相談についても、教師を信頼している生徒が多く、教師の努力が伺える。 ※進路については、看護科・調理科とも職業につながる学科であるため、入学時より意識は高く、キャリア教育や進路ガイダンスなどに真剣に取り組んでいる様子が伺える。

・体育祭は楽しく行われるよう工夫されている。(83%) ・校外学習は楽しく行われるよう工夫されている。(84%) ・生徒会活動は活発である。 (68%) ・授業などで、豊かな心や人の生き方について考える機会がある。 (66%) ・命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある。(84%) ・人権について学ぶ機会がある。(85%) ・学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。(63%) ・学校は生徒個々をしっかり把握し、いじめが起こらないようにしている。(62%) ・いじめを受けたことが発覚したとき、学校はすぐに対応してくれる。(61%) ・学校で、男女は平等に扱われている。(70%) ・環境、国際理解、福祉ボランティアなどについて学習する機会がある。(62%) ・先生の話は興味深くわかりやすい。 (66%) ・先生は責任を持って授業やその他の仕事に当たっている。(77%) ・先生は、お互いに協力し合っている。(72%) ・先生は学校の決まりや約束ごとを守っている。(72%) ・学校で、地震や火災などがおこった場合、どう行動したらよいか、知らされている。(68%) ・教室・特別教室・運動場などは、授業や生活がしやすいように整備されている。(73%) ・授業で特別教室がよく利用される。 (64%) ・学校の施設や設備、学校で使う道具や器具がこわれたときは、すぐに修理したり、取り替えたりしてくれる。(65%) ・授業などでコンピュータやプロジェクターを活用している。 (84%) ・成績などの内容についてプライバシーが守られている。(79%) ・先生は他の人に知られたくない秘密を守ってくれる。(73%) 生徒からの回答 (60%以上の否定的評価) なし	※生徒数が少ないため、学校行事は他校に比べ物足りない部分もある。そのような状況であるが、生徒は現状を理解し楽しんでいることが伺える。 ※命の大切さや人権について学んでいることを意識している様子が伺える。 ※いじめに関しては、肯定的な評価が60%代なので、この結果に満足してはいけない。いじめに関する取り組みを見直さなければならない。 ※教師の仕事に取り組む姿勢は生徒から理解され、評価されていることが伺える。 ※専攻科の教室・看護科演習室・調理科実習室・総合調理実習室をリニューアルしたので、設備面に関しては以前より評価が高くなっている。 ※各教室に設置したプロジェクターやWi-Fi設備を活用し、授業でICT教育の充実が図られている。

保護者からの回答 (60%以上の肯定的評価) ・子どもは学校へ行くのを楽しみにしている。(83%) ・子どもは、自分の学級が楽しいといっている。(81%) ・学校の雰囲気がよく、生徒が生き生きしている。(66%) ・先生は子どもを理解している。(81%) ・この学校は、他の学校にない特色ある教育活動に取り組んでいる。(94%) ・学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。(84%) ・学校は保護者の願いにこたえている。(66%) ・子どもは、授業が楽しくわかりやすいと言っている。(67%) ・学習の内容や進度等を、懇談や通信などによって知ることができる。(76%) ・通知表は、子どもの学力や達成度がわかりやすく表すように工夫されている。(87%) ・学校は、保護者の相談に適切に応じてくれる。(66%) ・先生は子どものまちがった行動を厳しく指導してくれる。(72%) ・学校はいじめや暴力のない学校づくりに取り組んでいる。(66%) ・子どもの心身の健康について、気軽に先生に相談できる。(73%) ・学校の生徒指導の方針は、保護者に示されている。(66%) ・学校の生徒指導の方針に共感できる(61%) ・学校は将来の進路や職業などについて適切な指導を行っている。(89%) ・進路指導面で、学校は家庭への連絡や意思疎通を、きめ細かく行っている。(67%) ・学校は、進路に関して、家庭への連絡や適切な情報提供を行っている。(67%) ・文化祭や宿泊行事などの学校行事は、生徒が積極的に参加できるよう工夫されている。(72%) ・学校は、自分の生き方を考え、豊かな心を持った子どもを育てようとしている。(65%) ・学校は子どもに生命を大切にする心や社会ルールを守る態度を育てようとしている。(73%) ・子どもは、学校に友達がいるといっている。(93%) ・学校は、子どもに人権を尊重する意識を育てようとしている。(67%) ・地震や台風などの場合の対応については、子どもや保護者に知らされている。(72%) ・学校の施設・設備は学習環境面で満足できる。(72%) ・学校は施設・設備を有効に利用している。(64%) ・学校は、家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている。(61%) ・学校が保護者に出す文書・事務連絡等は適切である。(82%) ・学校では子どもに関する個人情報が守られている。(76%) ・学校は、教育情報について、提供の努力をしている。(64%) 保護者からの回答 (60%以上の否定的評価) なし	※子供は学校へ楽しく登校し自分の学級が楽しいと感じている。これは、生徒からの回答とも一致している。 ※資格取得に特化した学校であることが認知されていると考えられる。 ※数字からは学校と保護者との意思の疎通が図られ、教員の子供への指導法や評価に対しても理解していただいていることが伺えるが、満足できる数字ではない。個別の意見では生徒の学校での様子が伝わっていないという意見もあるので、学校の様子を充分伝えていかなければならない。 ※生徒指導については、保護者の理解が得られていることが伺える。個別の意見では、もっと厳しくしてほしいとの意見もあることを各教師は意識しなければならない。 ※キャリア教育や進路ガイダンスなどの取り組みが、保護者にも伝わっていることが伺える。今後もより良い教育が行えるよう保護者や生徒の意見も検討し、努力していくことが必要だ。 ※学校の施設・設備に対し、満足していただいているようである。以前は個別の意見で施設・設備に対する指摘が多くあったが、年々少なくなってきている。

教員からの回答 (60%以上の肯定的評価) ・学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。(83%) ・各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている。(61%) ・この学校の教育活動には、他の学校にない特色がある。(78%) ・教育課程の編成に当たって、学習指導要領の趣旨が生かされている。(72%) ・教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に生かしている。(83%) ・教職員は生徒の意見をよく聞いている。(89%) ・学校は、教育活動全般について、生徒や保護者の願いに応えている。(78%) ・年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。(78%) ・各教科において、教材の精選・工夫を行っている。(78%) ・生徒の実態をふまえ、参加体験型の学習を行うなど、指導方法の工夫・改善を行っている。(72%) ・グループ学習を行うなど、学習形態の工夫・改善を行っている。(72%) ・この学校では、到達度の低い生徒に対する学習指導について、全校的課題として取り組んでいる。(72%) ・生徒の学習意欲に応じて、学習指導の方法や内容について工夫している。(83%) ・評価の在り方について話し合う機会がある。(72%) ・生徒による問題行動が起こった時、組織的に対応できる体制が整っている。(92%) ・様々な問題行動の防止のための早期指導に学校全体で取り組んでいる。(89%) ・教育相談体制が整備されており、生徒は学級担任以外の教職員とも相談することができる。(94%) ・この学校では、生徒指導において、家庭との連携ができている。(78%) ・生徒指導において、警察・少年サポートセンター・子ども家庭センター等の関係諸機関との連携ができている。(67%) ・この学校では、生徒が望ましい勤労観、職業観を持つことができるよう、系統的なキャリア教育を行っている。(72%) ・生徒一人ひとりが興味・関心・適正に応じて進路選択できるよう、きめ細かい指導を行っている。(83%) ・ホームルーム活動を主とした学級経営の改善に、学級や学年、学校全体で取り組んでいる。(72%) ・この学校は、情報リテラシーや情報モラルを高める教育に取り組んでいる。(72%) ・教育活動において、生徒に社会規範や市民道徳を守る意識が育まれる機会をつくるよう配慮している。(61%) ・教育活動において、生徒が命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会をつくるよう配慮している。(72%) ・人権問題を正しく理解し、差別や偏見のない社会をめざす主体的な生き方につながる学習となるよう工夫している。(78%) ・在日外国人に対する偏見や差別のない社会をめざして、主体的な	※教員は教育活動に真剣に向き合い、日々真面目に仕事に取り組んでいることが伺える。 ※教員は生徒の実態に合わせ、授業方法や教材を工夫・改善し、生徒にとってより良い授業となるよう心掛けていることが伺える。 ※生徒による問題行動が起こった場合は、生徒指導部が中心となり学校全体で取り組んでいることが伺える。 ※生徒指導についても、家庭との連携ができている。 ※進路指導は生徒個々に応じてきめ細かく行っている。 ※教育活動は学習だけではなく、社会のルール等についても学ぶことができるよう配慮されている。 ※人権教育は人権委員会で計画を立て、定期的に行われている。教職員対象の人権研修会も行っている。

生き方につながる学習となるよう工夫している。(67%) ・障がい者理解を深め、ノーマライゼーションの理念に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。(61%) ・固定的な性別役割分担意識を是正し、男女共生意識に基づく社会を築く資質を養うことができるよう工夫している。(67%) ・体罰やセクシュアル・ハラスメントの防止をはじめ、人権尊重の姿勢にもとづいた生徒指導が行われている。(89%) ・校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。(83%) ・学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。(94%) ・学校運営に教職員の意見が反映されている。(61%) ・教職員の適性・能力に応じた校内人事や校務分掌の分担がなされ、教職員が意欲的に取り組める環境にある。(78%) ・各分掌や各学年間の連携が円滑に行われ、有機的に機能している。(78%)	※人権を尊重した生徒指導が行われていることが伺われる。 ※教職員が意欲的に職務に取り組める環境であることが伺われる。
・職員会議をはじめ各種会議が、教職員間の意思疎通や意見交換の場として有効に機能している。(67%) ・会議の内容が教育活動や学校運営に生かされている。(89%) ・教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている。(78%) ・日々の教育活動における問題意識や悩みについて、気軽に相談し合えるような職場の人間関係ができている。(78%) ・この職場においては、教職員の服務規律への自覚が高い。(83%) ・事故、事件、災害等に対して迅速かつ適切な対処ができるよう、役割分担が明確化されている。(83%) ・学校予算は一定のルールに基づき、適切に編成・執行されている。(83%) ・この学校では、生徒の生活の場として、ゆとりと潤いのある教育環境が整備されている。(72%) ・施設・設備の拡充は、長期的見通しに立って計画されている。(61%) ・施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。(89%) ・各教科の備品や教材教具が活用されている。(83%) ・コンピュータ等のICT機器が、授業などで活用されている。(83%) ・校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。(67%) ・校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。(61%) ・公文書の収受、発送、保管に対する管理がなされている。(72%) ・学校から保護者あてに公文書を発行するに当たって、校長が決裁するシステムが生かされている。(78%) ・指導要録の記入が年度内に適正に行われている。(78%) ・個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立されている。(94%) ・教育活動に必要な情報について、生徒・保護者や地域への周知に努めている。(89%) ・情報提供の手段として、学校のホームページが活用されている。(83%)	※教職員間で意思の疎通が図られることにより相互理解がなされ、教育活動が行われることは非常に大事なことで、これからも続けていかなければならない。 ※教職員が孤立することなく、良好な人間関係ができていることが伺われる。 ※ICT機器も授業で生かされていることが伺える。 ※生徒の個人情報が適正に管理されている。 ※教員が少なくなり、各分掌の活動も難しい面があるが、努力していることが伺える。
教員からの回答 (60%以上の否定的評価) ・学校として、部活動の活性化について工夫している。(78%) ・この学校では、清掃がいきとどいている。(51%)	※生徒数が少なく非常に難しいが、部活動の活性化について考えなければならない。 ※清掃は学校全体で真剣に取り組まなければならない。

4　本年度の取組内容及び自己評価

	重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	取組内容の自己評価
取り組み①	確かな（学力向上への）取り組み	1）生徒の学習意欲の向上 ①基礎学力の向上	1） ①基礎学力は向上したか。	1） ①授業内で基礎学力の向上を図った。生徒の学習に対する姿勢は年々向上している。しかしベネッセ基礎力診断テストの結果では、昨年度に比べ上位判定者は4名で同じだが、下位判定者が16名から26名と大幅に増加したので原因を究明しなければならない。次年度は上位者が増加し、下位者が減少するよう、基礎学力の向上を図らなければならない。
		②少数精鋭で生徒個々の能力を引き出す	②生徒個々の能力を引き出せたか。	②少数精鋭をめざしたことにより、生徒それぞれの個性をより把握できるようになり、能力も引き出せるようになった。生徒と教師のコミュニケーションは以前よりもよくなっていることは今回のアンケート結果でも表れている。引き続き、生徒個々の能力を引き出す努力を行わなければならない。
		③希望進路への充分な取り組み	③希望進路へ進むための取り組みはできたか。	③キャリア教育、進路ガイダンスを定期的に行い取り組んだ。インターンシップにも意欲的に取り組んだ。進路に関して、保護者への周知は今以上に必要である。保護者に充分周知し、一緒に考えられる取り組みが必要だ。
		④調理科の資格取得への取り組み	④資格取得への取り組みは出来たか。	④調理検定、フグ処理資格、野菜ソムリエ、食育インストラクター、技術考査の資格試験対策の為、補習等で学習・技術修得に励んだ。フグ処理資格以外は全員合格した。フグ処理資格は若干名が不合格になった。目標は資格試験受験者全員合格である。
		2）教員の指導力向上の取組 ①校内・校外研修の取組	2） ①研修は実施されたか。	2） ①校内研修は各学期に人権研修を行った。校外研修は新任が人権研修、管理職・教科主任が教育課程研修等に参加した。
		②初任者への公開授業の取組	②初任者への公開授業は実施されたか。	②公開授業は行えなかった。本来は、授業法や指導方法の強化のためにも公開授業は行わなければならない。

		③リーダーの養成	③リーダーの養成は出来たか。	③新たなリーダーが着実に育ち科長や部長に登用されている。
		3）自学自習の習慣化に向けての取組	3）	3）
		①平素の授業での指導の徹底	①平素の授業で指導の徹底はできたか。	①自学自習の習慣化をめざし、平素の授業で指導は行った。効果は表れているが、今後も継続的な指導が必要。
		②集中力を身につけさせ、学習効果を上げさせる。	②集中力を身につけさせられたか。	②授業中の態度は向上しているが、全生徒に徹底しているわけではない。今後も指導方法を工夫し、継続した対策が必要。
		③授業のみならず課題学習への重点的な取り組み。	③課題学習の取り組みは出来たか。	③授業で課題学習を取り入れ、課題の提出等効果は表れている。
		④実力テストや資格検定の実施	④実力テストや資格検定は実施したか。	④実力テストはベネッセの基礎力診断テストを３回行った。 専門科目模試は、看護科本科ではクオリス模試を２回、専攻科Ⅰ年生では医教・メディックメディアの模試を合計2回、専攻科Ⅱ年生では東京アカデミー・医教の模試を合計6回行った。 資格検定は全学科で漢字検定を2回行った。調理科では調理検定、技術考査、ふぐ処理資格、野菜ソムリエ、食育インストラクター、サービス接遇検定の各資格取得に挑戦した。
		4）進路指導の充実 ①推薦・AO・センター試験等に向けての取組	4） ①取組を行ったか。	4） ①調理科では、進路ガイダンスや進路説明会で取り組んだ。
		②就職指導の充実	②就職指導は行ったか。	②進路ガイダンスで就職指導は行った。看護科専攻科では外部講師による就職指導も行った。各科で就職希望者は全員就職できた。高卒者の就職が難しい調理科でも、大手ホテルや有名店に希望者全員就職できた。
		③企業見学や企業が求める人材の育成	③企業見学や企業が求める人材の育成はできたか	③調理科では企業見学の一環としてインターンシップを行った。就職先と話し合い、求められる人材の育成に努めている。就職先とも協力し、就職後早期の退職者をなくすことを目標としている。

		③看護師国家試験対策	③看護師国家試験対策は行ったか。	③看護師国家試験対策は看護科専攻科で模試や弱点補強講座、国試解説授業、過去問解説を行った。国試の合格率は昨年度からは変わっていない。国試の合格率は100%をめざし、対策を行いたい。
		5）ICT教育の充実 ①校内委員会の活動	5） ①校内委員会の活動は行ったか。	5） ①ICT委員会ではICT教育のより良い方法を考えている。アンケート結果からも、各教師が積極的にICT機器を用いた授業を行っていることが伺える。
		②設備面の充実	②設備面は充実したか。	②2025年度は専攻科教室・更衣室を新設した。
取組み②	豊かな心を育むための取り組み	①キャリア教育と人権教育の取り組み。	①キャリア教育と人権教育は行ったか。	①進路ガイダンスとしてキャリア教育を行った。人権教育は各学期に行い、生徒アンケートでも認識されている。
		②看護科の臨地実習の充実	②臨地実習の拡充と整理は行ったか。	②生徒数が減少したので実習病院の受け入れ人数を調整した。
		③調理科の校外実習、インターンシップの取り組み	③校外実習は行ったか。インターンシップに積極的に取り組んだか。	③校外実習は2年生が宿泊を伴った実習を行った。3年生は修学旅行先ホテルで実習を行った。各学年、校外でテーブルマナー講習会、パン作りの実習を行った。インターンシップは就職希望者を対象に積極的に取り組み、就職につながる成果も認められた。 就職先とのより良いコミュニケーションを図り、学校と就職先との結びつきも強くなった。
取組み③	学校の組織力向上の取り組み	1）学校診断の実施	1）自己診断を行ったか。	1）保護者、生徒及び教員にアンケートを行い、結果の考察を行った。
		2）保護者との連携	2）保護者との連携をし、互いの理解度は増したか。	2）文化祭には多くの保護者が来校していただいた。調理科では学習成果発表会を行い、保護者の皆さんには非常に好評だった。
		3）地域連携	3）地域との連携は出来ているか	3）教職員が校門であいさつ運動を実行し、地域との連携を高めている。

		4）広報活動の充実	4）広報活動は充実していたか。	4）オープンスクールは３回、入試対策講座は２回行い、全教職員で取り組んでいる。 入試広報室も積極的に校外の説明会に参加し、中学校訪問も積極的に行っている。中学校からの出前授業や学校見学の依頼も受け入れている。
取組み④	教職員の資質向上を目指した体制づくり	1）授業力向上に向けた具体的(研究授業・研修等)な取り組み。	1）研究授業・研修を行ったか。	1）校内での研究授業ができていない。長年の課題ではあるが、行事や実習を優先するため日程が取れない。日程調整をし、研究授業を積極的に取り入れなければならない。 校内での研修は新人研修を1回、校外から講師を招いた人権研修を2回行った。 生徒への性暴力等防止の校内研修を1回行った。
		2）教科・進路指導部を中心に学力の向上と進路実現に向けた取り組み。	2）学力向上と進路実現に向けた取り組みはおこなえたか。	2）生徒への取り組みは行えたが、教員に対してはあまりおこなえていない。教員への進路説明会や研修会を行わなければならない。
		3）学科間の連携、教職員間の連携	3）連携はできたか。	3）学科ごとの特性を生かしつつ、共通の行事、校務分掌をとおして教師が交流することによりお互い理解している。教職員に好評の調理科レストランは１回実施した。調理科の学習成果発表会には看護科の教師も参加し、調理科への理解が深まった。今後も、交流できる機会を作っていかなければならない。